



日本文化型看護学の創出・国際発信拠点

実践知に基づく看護学の確立と展開



「人文社会科学研究科との連携について」

副拠点リーダー 千葉大学看護学部老人看護学教授 正木治恵

千葉大学では21世紀COEプログラムとして4拠点採択されており、古在学長のご発案により、この度COE拠点間の連携の可能性を検討していくことになりました。

そこで、「福祉」や「ケア」など類似したテーマを掲げながらもまったく違うアプローチから研究を行っている千葉大学大学院人文社会科学研究科(人社研)COE「持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点」と、「日本文化型看護学」の確立を目指している本拠点との間で、9月27日、お互いの接点を探るべく、情報交換・意見交換会がもたれました。当日は人社研COEの拠点リーダーである広井良典氏、同じく国際関係を担当されている小川哲生氏、そして同COEフェローである一ノ瀬佳也氏を迎え、まず当COE拠点副リーダーである正木が当COEの研究プロジェクト構成と成果について紹介し、次に広井氏から人社研COEについて説明を受けた後、小川氏と一ノ瀬氏より具体的な共同研究プロジェクトの提案を頂きました。参加者は推進担当者とフェローを交えて総勢13名となり、公共政策の中で捉える「ケア」と、ケアを実践する専門職が捉える「ケア」との共通項を様々な観点から検討し、最終的には2時間半を超えて、話し合いは続きました。



当日の様子、右より小川氏、広井氏、一ノ瀬氏

この話し合いを経て、早速、10月17日(火)にロンドン大学キングスカレッジとの国際ワークショップを共同開催することになりました。共同研究への発展が期待されます。

今後も、日本文化型看護学からの発信がどのような役割を果たしていくことができるのか、様々な分野との意見交換や連携を通して、引き続き検討していきたいと思っております。

サブプロジェクトの活動紹介

◆SP-F「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システムの開発」平成18年度上半期の成果

SP-Fリーダー 舟島なをみ

平成18年度、サブプロジェクトFは「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」検証の最終段階に入った。その一環として、A・B病院、D県看護協会との合同合宿を9月22日から24日に終えたばかりである。平成18年度上半期は、国内の学術集会上に9件、海外の学術集会上に8件の研究成果を発表してきた。これと並行し、雑誌に特集を組む、看護系大学・看護継続教育機関に授業を提供するといった活動を通し、「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」活用に必要な知識の普及に努めてきた。その結果、読者・受講者からの問い合わせが続いており、現在、「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」活用の解説を執筆中である。異文化間研究「看護学教員のロールモデル行動」は、全米調査に向けた準備を終えつつあり、イスラエル、南アフリカの看護学教員からも共同研究の申し出を受けている。



「合宿を終えて」

英語教育

本拠点では研究成果の国際発信力を高めるために英語によるプレゼンテーション能力、読解力を高めるプログラムを実施しています。昨年に引き続き今年も、スコット・バウアー先生が担当されています。

「The Way to Effective Speakingを受講して」

訪問看護学助手 片倉直子

私が今年度前期に受講したクラスの内容は、自分の表現したい内容を聞き手に英語で伝えるための、効果的なプレゼンテーションの構造化技法でした。このクラスを受講中、私はロンドンで働く地域看護師や看護学研究者に、「訪問看護における日本と欧米との文化的な違い」という内容でセミナーを依頼されました。そこで活用したのが「ハンバーガー理論（スピーチはIntroduction、Body、Conclusionの3つのメインパートからなっていること、ひとつの話題から次の話題に移るときにはTransitionを入れる等）」です。その他の方法としてはEye ContactとGestureを取り入れました。私の悪い発音と複雑な内容にもかかわらず、30人あまりの参加者の皆さんから質問があったことから、一応無事セミナーは終了することができました。

「スコット先生からのメッセージ」

October 13, 2006

Dear Faculty and Students,

Over the past year it has been a real pleasure to be associated with the students and faculty members at Chiba University School of Nursing. We have spent a lot of hours working hard to improve all four skills of reading, writing, listening and speaking. I hope that all the English students have enjoyed studying as much as I have teaching. I look forward to seeing you in the future.

Sincerely, Scott Bower

P.S. Please remember its “healthy” to take an English shower everyday!



COE主催・共催イベントのお知らせ

【国際ワークショップ】

千葉大学園芸学部、人文社会科学研究所COE、
看護学部COE共同開催国際ワークショップ

「Defending the Plot: The Allotment Garden
as Contested Urban Green Space

—市民農園と政治エコロジー—

■ 講師：リチャード・ウィルシャー
(ロンドン大学キングズ・カレッジ)

■ 日時：2006年10月17日(火)



【ワークショップ】

サブプロジェクト「日本型倫理的推論の特徴と看護
基礎教育」企画

「アジア文化と看護倫理教育」

■ 日時：2006年10月22日(日)
■ 場所：千葉大学看護学部 講義・実習室
■ 参加費：無料

【ワークショップ】

領域横断研究グループ企画

「終末期がん看護国際ワークショップ—文化を反映
した終末期がん患者看護実践モデルの作成に向けて」

■ 講師：Dr Rosemary McIntyre(ネピア大学(イ
ギリス), 研究員, 元Marie Curie Cancer
Care主任研究員)

Dr 和泉成子 (オレゴンヘルスサイエ
ンス, 研究員, 元福岡県立大学助教授)

■ 日時：2007年2月19日(月)
■ 場所：千葉大学看護学部 講義・実習室
■ 参加費：無料

COEフェローの活動

<研究論文>

・前原邦江：わが子の合図をよみとる感性性を高め
る看護援助—産褥早期の母子相互作用のアッセ
メントから—, 母性衛生, 47(2), 429-438, 2006

<学会発表>

◆日本地域看護学会第9回学術集会(和光市)7月29、30日
・井出成美, 佐藤紀子, 宮崎美砂子, 細谷紀子, 山田洋
子, 石川麻衣: 独居高齢者の社会的サポートネット
ワークの実態と内容

◆第21回千葉看護学会学術集会(千葉市)9月10日
・吉田千文, 小池智子, 岩崎弥生, 荻野雅, 鈴木明子,
野崎章子: 医療組織文化と看護ケア—日本文献調
査から

◆第10回日中看護学会(中国江蘇省蘇州市 蘇州国
際会議中心大酒店)9月17~19日

・吉田千文, 森恵美, 手島恵, 酒井郁子, 山本利江, 荻野
雅, 高橋久一郎: クリティカルケアにおける倫理的課
題—1985年~2005年日本における文献調査から—
・張平平, 張蘭芳, 正木治恵: 126例内科住院老年病人
服薬能力的評価調査(中国側からの投稿)
・張平平, 矢野正子: 注射事故防止における看護師の
認識に関する研究(日本側からの投稿)
・陳東, 森恵美: 乳幼児を育てる親の子育て観尺度の
開発—日本語版と中国語版子育て観尺度の作成と
内容的・表面的妥当性の検討—

◆第37回日本看護学会(看護管理)(埼玉)10月25日、26日
・吉田千文, 酒井郁子, 綿貫成明: 保健医療施設にお
けるせん妄ケアと看護職者の体験する困難

＜セミナー＞

◆山形大学医学部看護学科公開セミナー

「看護に求められる文化的能力

—看護学と文化人類学の出会い—

- 講師：川添裕子（COEフェロー）
- 日時：2006年10月11日（水）16:30～18:30
- 場所：山形大学医学部



問い合わせ先：
www.id.yamagata-u.ac.jp/Nursing/news/kokai_seminar.html

＜海外報告＞

「ストックホルムとロンドンにおける調査について」

COEフェロー 望月由紀

- 日時：2006年9月5～17日

- 場所：ストックホルム(スウェーデン)、ロンドン(イギリス)

在宅看護を提供する際の看護師の行為とその背景にある規範に対する文化の影響を明らかにするために、ストックホルムとロンドンという都市部における在宅看護の見学、および当地で働く日本人看護師へのインタビューを行いました。



カロリンスカ大学にて



ロンドン大学(UCL)にて

ストックホルムではカロリンスカ大学、ロンドンではロンドン大学(UCL) The Primary Care Nursing Research Unitと共同研究をする運びとなりました。また、9月15日には訪問看護学片倉助手と博士課程の岡本氏がロンドン大学において日本の健康保険制

度、およびサブプロジェクトCにおける研究成果の一部を紹介するセミナーを行いました。

「第10回日中看護学会について」

COEフェロー 張平平

- 日時：2006年9月17～19日
- 場所：中国江蘇省蘇州市
- テーマ：「看護の質と安全管理」

本学会は日本看護協会と中国護理学会の主催により隔年で中国で開催され、両国の看護職の情報交換と交流促進を図っています。今回の学会では、日本と中国の看護教育、および日本における生活習慣病対策と日本看護協会に関するテーマ別講演が行われ、両国の看護師がより一層質の高い、安全の確保できる看護を提供するためお互いにディスカッションをしました。

本学部からは森恵美教授(母性看護学)、野本百合子助教授(看護教育学)、および張平平、陳東、三浦弘恵(元COEフェロー、現群馬県立県民健康科学大学)、吉田千文各フェローが参加し、本拠点での研究成果を発表しました。更に、陳フェローと張フェローはボランティアとして通訳も務めました。



発表の様子(張フェロー(右)、吉田フェロー(真中))

連 絡 先

千葉大学21世紀COEプログラム「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部 COE 研究室

Tel : 043-222-7171 (代表 内線5859) Fax : 043-222-7330

URL : www.chiba-u-21coe.jp